



平成 23 年 4 月 1 日

高山セミナー、鎌倉セミナーのご案内

東海事務局、セミナー実行委員会

当会では、今回の金沢セミナーに引き続き伝統木造の耐震診断・耐震性能評価に関するセミナーを 8 / 27・28 (土・日) には岐阜県高山市で、更に 11 / 26 (土) には神奈川県鎌倉市で開催を決めました。

特に高山セミナーは、当会の年次総会と同時開催として、セミナー会場をこの春整備完了の高山市郷土館と致しました。郷土館の一部、旧永田家土蔵は名工坂下甚吉によるものです。高山には坂下の他、名工と呼ばれる棟梁の建物が沢山残っており、既にご覧の方も多いと存じますが、日下部邸 (日下部民藝館) は川尻治助、吉島家邸は西田伊三郎です。日下部邸が男性的な佇まいとするなら、吉島邸は凛とした女性の風情で、伝統木造を語る時忘れてはならない建物です。吉島邸は海外からの人気も高く、ロックフェラーの購入申し入れや、建築家のチャールズ・ムーアが「地球を半周しても、見に来た価値があった」と激賞したなど、その種のエピソードにこと欠きません。この建物は、明治 40 年のものですが、今われわれは法以前のこれらの建物の耐震性能評価をどうすべきなのか。

嘗て明治維新、眩しい近代西洋に幻惑された廃仏毀釈の嵐で興福寺五重塔は危うく薪にされかかったと今の人々は嗤いますが、住宅ストックの耐震化率を 95%にするという御旗のもと、われわれはまたいつか来た道を辿ろうとしているのではないのでしょうか。

高山市内には市街地に限らず至る所にふるい民家や農家が残り、そこに市民は綿々と暮らしております。この国にはまだまだ少なからずこういった景色がありますが、はたして現行の耐震診断や補強は畳に土足の体だとするのは言い過ぎでしょうか。

今こそ伝統木構造のあるべき耐震補強を真剣に考えなければなりません。

高山セミナーの講師には金沢に引き続き後藤正美金沢工大教授、大工棟梁の菊池均氏、当会の増田一眞会長、鎌倉セミナーでは後藤氏・菊池氏・増田会長に加え、当地で腕を振るわれている建築家の大沢匠氏を予定しております。

願わくばこのお知らせが地球の裏側まで届くほど拡がり、多くの皆様のご参加が戴ければと切望致します。

